

資料

## アメリカの公衆衛生看護活動基準の動向に関する研究

### A Study about the Trend of American Public Health Nursing Standards

降籬 幹子      佐々木 美佐子  
Mikiko Furihata      Misako Sasaki

獨協医科大学看護学部  
Dokkyo Medical University School of Nursing

**要 旨** 本研究では、アメリカの公衆衛生看護における活動基準に関する研究動向を明らかにし、今後、日本の保健師活動基準の開発の方向を検討することを目的とした。CINAHLを用いて、「public health nursing」、「community health nursing」、「standards」のキーワードで、48文献が検索された。そのうち、大半を占めるアメリカの保健師活動基準の研究動向を知るために、1次文献として、2000年から2007年の発行で、入手可能であり、解説や雑誌記事を除き、「研究」と「実践報告」に限る文献15件をレビューシートに作成した。

アメリカの保健師の活動基準の研究動向の分析は、1) 活動基準の開発の文献、2) 既の開発された実践に利用されている活動基準の評価の文献、3) 大学における公衆衛生看護の教育の文献3つの内容に分類された。

開発された活動基準は、ポピュレーションベースの活動基準であることが特徴である。また、既の開発された実践に利用されている活動基準の評価をした研究は、保健師のコンピテンシーを高めるために、更なる開発が行われており、長年の公衆衛生看護の実践の積み上げがされている結果である。更に、アメリカの保健師教育は、専門性を更に高めるための卒後プログラムの開発を大学や行政機関が積極的に行っている。日本においての課題は、従来ある地域看護診断などの指標を使用し、評価分析による公衆衛生看護活動基準の開発は必要である。感染症や災害などの様々な問題に対応するために、個人・家族とコミュニティと社会的システムをマネジメントしていくポピュレーションベースの活動基準の開発が必要であると思われる。

キーワード：公衆衛生看護 保健師 活動基準 コンピテンシー

#### I. 緒言

日本の保健師は、昭和12年旧保健所法指定規則に保健所職員として明記され、公衆衛生を担う看護職として戦時国家体制時の人口政策という国策の末端を推進する人的資源としての活動を開始した。1941年に制定した保健婦規則に身分や業務内容、教育等が規定され、1948年に制定した保健師助産師看護師法に保健婦の名称

を用いて保健指導を行う女子と定義された。

公衆衛生活動は各時代の健康問題に合わせて、これまで結核対策、感染症対策、乳幼児保健対策、虐待児を抱える家族の支援、難病対策、老人保健対策、介護予防、高齢者対策、メタボリックシンドローム対策などの施策を展開してきた。

保健師は国の政策に基づき、その政策の中で、公衆衛生の要として独自の「地域をみる」とい

う視点で、地域住民の健康を守る活動を展開してきたが、高齢化の進展、健康問題の複雑化、地域の健康に取り組む職種の多様化、社会状況に合わせた政策転換の速さなどにより、公衆衛生活動や保健師活動は大きく変化している。また、昨今は新感染症や大型災害の発生などに対する危機管理を含めた公衆衛生活動や保健師活動への期待は大きくなっている。このように保健師を取り巻く社会は、大きく変化し、従来の経験的活動に基づく活動だけでは対応できなくなっている現状がある。今後は、保健師活動基準の開発を行う必要がある。

保健師の発祥の地、アメリカでは、リリアン・ウォルドに発するアメリカの保健師の活動基準を単に発している<sup>1)</sup>。保健師活動基準の開発は1970年代末から1980年代に保健師の質確保のために論議されてはじめている<sup>2)</sup>。日本では、2003年にアメリカ公衆衛生協会公衆衛生看護部会による「Scope and Standards of Public Health Nursig Practice」<sup>3)</sup>が翻訳され<sup>4)</sup>、保健師の能力や活動基準の研究が進んでいる<sup>5) 6)</sup>。保健師活動モデルの文献研究<sup>7) 8)</sup>の研究はなされているが、海外、特にアメリカの保健師活動基準の研究は、どのような傾向があるか明らかにされている研究報告はない。

本研究では、アメリカの公衆衛生看護における活動基準に関する研究動向を明らかにし、今後、日本の保健師活動基準の開発の方向を検討するために、既存文献の検討を行った。

## II. 研究方法

### 1. 文献検索と分析対象とする文献の選定

文献は、データベースCINAHLを用いて、

2008年11月に検索をした。文献検索に使用したキーワードは「public health nursing」もしくは「community health nursing」,「standards」のキーワードで、48文献が検索された。そのうち、国内入手可能な文献で、対象論文は35文献であった。

対象文献の中で大半を占めるアメリカの保健師活動基準の研究動向を知るために、1次文献の選択をした。文献選択条件は、2000年から2007年の発行とし、解説や雑誌記事を除き、アメリカの保健師活動基準に関わる「研究」と「実践報告」に限る文献は、15文献であった。

### 2. 文献の分析方法

文献検討は、Cooperの統合的レビューの方法論<sup>9)</sup>を参考に、「著者」、「文献分類」、「研究目的」、「研究方法」、「結果概要」からなる一次文献レビュー表を作成し、文献検討対象となる15文献のデータを整理し分析をした。

## III. 結果

### 1. 文献の概要

対象文献35件のうち、アメリカ24件、イギリス5件、カナダ4件、スコットランド、中国各1件であった。

分析文献は、15文献は一次文献レビュー表に示した(表1)。文献分類<sup>10)</sup>は、15件中、介入研究5件、調査研究3件、文献研究3件、質的研究1件、実践報告3件であった。発行年代では、2003年3件、2004年3件、2006年8件、2007年1件であった。

表1 一次文献レビュー

| ID | 著者(年)                          | 文献分類 | 研究目的                                       | 研究方法  | 結果概要   |
|----|--------------------------------|------|--|---|--|
| 1  | Smith <sup>11)</sup><br>(2003) | 実践報告 | ロサンゼルス保健省公衆衛生看護部(LACPHN)による公衆衛生看護実践基準の開発報告 | LAC PHNは、実行モデルを開発した過程を報告。2010年Healthy People、ミネソタ州のPublic Health Nursing Interventions Modelを基に開発の手順の解析 | アセスメント、診断、結果、計画、構成要素(法的整備など)、評価をポピレーションベースで実施するLAC PHN Practice Modelは、保健師の役割援助を明確にし、すべての公衆衛生実践に適用できる公衆衛生看護モデルである。 |

|   |                                      |      |  |  |  |
|---|--------------------------------------|------|--|--|--|
| 2 | Abrams SE <sup>12)</sup><br>(2003)   | 文献研究 | 1931年から2003年における公衆衛生看護実践基準モデルをコンピテンシーモデル開発の変化を文献検討                   | The National Organization for Public Health NursingとQuad Councilの要素の比較 (Public Health Nursing 投稿してある論文検討)  | 社会状況の変化により, 社会的な巡回看護師の意味合いをもつ病人の世話をする保健師活動から地域を看護すること要求されるコンピテンシーに移行していった.                       |
| 3 | Kaiser KL <sup>13)</sup><br>(2003)   | 調査研究 | アメリカ看護協会によって開発されたClinical Performance Evaluation Tool (CPET- II)臨床評価 | CPET-IIを使った教育を受けている301人の学士過程の学生に, CPET- IIの8つの基準の相関評価. 第2に, 8つの基準のサブスケール64アイテムの間の相関関係の評価   | 8つのパフォーマンス標準の理論的なモデルにてすべてが必要な能力であった. 更に, 64のアイテムから主要12のファクターを導きだした.                              |
| 4 | Robertson <sup>14)</sup><br>(2004)   | 文献研究 | 修士号をもつ保健師実践と将来への影響を及ぼす問題を調査  | 1999年から2004年MEDLINEによる, アメリカ合衆国で修士号をもつ保健師の役割についての文献検索と修士課程による教育の効果文献にて評価   | 地域看護教育協会は, 修士課程での教育と主張するが, 他の看護組織と州は, 修士課程の教育の導入をしていない. これらは保健師事業での深刻な地位問題を引き起す.                 |
| 5 | Keller LO <sup>15)</sup><br>(2004)   | 実践報告 | ポピュレーションベースの公衆衛生看護の具体例の報告  | Intervention Wheelは, 国家レベルの保健師活動基準として, 放送されその後ビデオ化されて多くの活動場面で活用されている. IはIntervention Wheelの報告, IIは, Intervention Wheelが公衆衛生/保健婦事業実践, 教育と管理の中で革新的な方法の例を提示                                 | 事例からIntervention Wheelの利用は, モデルの有効性がある.  |
| 6 | Sakamoto SD <sup>16)</sup><br>(2004) | 介入研究 | LCAによる開発したPublic Health Nursing Practice Manualによる事例検討               | ロサンゼルス郡の保健師による活動基準を使用した事例研究 (サルモネラ感染症による家族, 職場への援助過程)  | Public Health Nursing Practice Manualは, 実践レベルにおいて効果的ツールである.                                      |
| 7 | Kalb KB <sup>17)</sup><br>(2006)     | 介入研究 | アメリカ公衆衛生組織で4職位実務レベルの保健師のためのコンピテンシーアプローチを作成                           | 保健師コンピテンシー文献レビューに基づいて, 8つの領域 (アセスメント, 目標/計画, 評価, コミュニケーション, 文化的な能力, 協力/協同, 予防/ヘルスプロモーション, リーダーシップ/システム化)のツールで, Public Health Seattle & King Countryに所属する看護師, 実践看護師, CNS, 高度実践看護師50人による評価 | 4職位ごとに8つの領域コンピテンシーの公衆衛生看護効率的な評価基準を開発した. そのようなツールを採用することは, 看護師がポピュレーションベースの公衆衛生活動での役割を助長する.       |
| 8 | Oppewal <sup>18)</sup><br>(2006)     | 調査研究 | 保健師実践者と研究者のコンピテンシー活用の方法の相違を調査  | 1,786人に, 理論的なフレームワークとしてロジャーズの選択回答式調査   | 334 (18.7%) の回答. 公衆衛生専門家のためのコンピテンシーコア」をよく理解し, 利用をしている. 保健師2/3は, 勤務後2年後にコンピテンシーを利用している. 教職員は更に早い. |

|    |                                    |        |  |   |  |
|----|------------------------------------|--------|--|---|--|
| 9  | Ouzts KN <sup>19)</sup><br>(2006)  | 実践報告   | RN/BSN看護プログラムの開発                             | 地方の公衆衛生看護のリーダーを育成するために、地方の学生に対しての大学と協力を通してBSN教育の実践評価                      | 全土で開発したPublic health nursing competencies, 大学, 地元の行政機関間の協力関係は現場の指導と学生に有効である. |
| 10 | King <sup>20)</sup><br>(2006)      | 質的研究   | PHN competencies 制定過程を調査                     | The Quad of CouncilのPublic Health Competencies制定に関わった5人の口述歴史から報告          | 定義と重要性, 2001年からの改善への推進力, スキルレベルなどの改善点などの報告をした.                               |
| 11 | Cross <sup>21)</sup><br>(2006)     | 調査研究   | ポピュレーションベースの公衆衛生看護の地域のコンピテンシーの測定のための試験開発     | ミネソタ モデルを指標に5つの北部中西部州が実践保健師専門家を特定しそのうち, 高度教育的コースに参加しなかった40人の地域看護師         | ポピュレーションベース公衆衛生看護の保健師事業カリキュラムを計画することに役立つ, 学生が看護過程による学びの援助なる.                 |
| 12 | Swider <sup>22)</sup><br>(2006)    | 事例介入研究 | Rush University の卒業生のためのCNSの教育カリキュラムの開発      | 様々な職位レベルの卒業生カリキュラムを通して能力を集積するプログラムを事例により測定                                | 活動場面の事例により, 保健師活動能力別認識, 知識, 熟練知識別の保健師の実践方法をプログラム化した. それらは教員による評価では有効である.     |
| 13 | Issel LM <sup>23)</sup><br>(2006)  | 介入研究   | 実践保健師と教員の必要なコンピテンシーを評価                       | 50保健施設から保健師168人, イイノイ州の保健事業に対して, 1年間隔, 保健師能力領域自己申告のレベルのアンケートをし, 9つの指標から測定 | コンピテンシーとして必要なものは, 実践保健師は, 人々とサービスを関連づけることが有効である. 教員が9つの領域の実践において有効である.       |
| 14 | Maltby <sup>24)</sup><br>(2006)    | 介入報告   | バーモント大学看護学生とバーリントン保健局の協力による看護学生の教育実践報告, 卒後評価 | バーモント州バーリントンで開催した健康祭をDimensions of Associatesにて評価                         | 学生が8つのコンピテンシーを達成する. コミュニティと大学の協力は, 看護学生にコミュニティを構築する重要性を学ばせ, 学習意欲を向上させる.      |
| 15 | Weierbach <sup>25)</sup><br>(2007) | 文献研究   | 健康管理をする訪問看護師コンピテンシーの開発における歴史文献研究             | 1953年～1966年 Instructive Visiting Nurse Association の訪問システムの開発の報告          | コンピテンシーを利用した訪問システムは, 効果的な実績と費用効果の結果を導いた.                                     |

## 2. 研究内容の概要

アメリカの保健師の活動基準の研究内容についてのレビューシートを用い分析検討した結果, 3つの内容に分類された.

### 1) 活動基準の開発の文献

(文献ID 1.7.9.11.15 : 5件)

文献1:Smith k (2003)<sup>11)</sup>らによる Los Angeles County Department of Health Services Public Health Nursing (LAC PHN) により開発されたLAC PHN Practice Modelの開発過程の報告, 文献7:Kalb KB (2006)<sup>17)</sup>による4職位別

Registered nurse, NursePractitioner, Clinical Nurse Specialists(以下CNS), Specialist, Nursing Supervisorの公衆衛生看護活動におけるコンピテンシーアプローチ開発, 文献9:Ouzts KN (2006)<sup>19)</sup>による地方の公衆衛生におけるリーダー育成のための看護プログラムの開発をしている. これら研究の共通することは, 1999年にアメリカ看護協会によるScope and Standards Public Health Nursing Practice, また, 2003年に主要4団体公衆衛生団体 (Quad Council) が作成した公衆衛生看護コンピテンシー (Public

Health Nursing Competencies) が指標になって開発をしている。

文献11:Cross (2006)<sup>21)</sup> は、1988年にミネソタ保健省によって開発されたPublic Health Intervention Modelを指標に、ポピュレーションベースの公衆衛生看護活動基準の開発をした。

文献15:Weierbach (2007)<sup>25)</sup> は、1953年から1966年に開発された訪問看護師のための健康管理基準を歴史手法で文献から検討をした。その後の保健師活動基準の開発に影響を与えていると述べている。

## 2) 既に開発された実践に利用されている活動基準の評価の文献

(文献ID 2.3.5.6.8.10.13 : 7件)

文献3:Kaiser KL (2003)<sup>13)</sup> は、アメリカ看護協会によって開発されたClinical Performance Evaluation Tool (CPET- II) の調査による評価をした。文献5:Keller LO (2004)<sup>15)</sup> は、ポピュレーションベースの公衆衛生看護活動基準であるIntervention Wheelの事例による評価をした。Intervention Wheel (以前Public Health Intervention Model) は、ミネソタ保健省によって、1998年に導入され、アメリカ合衆国内の保健師活動基準として使用をしてきたものである。また、文献6:Sakamoto SD (2004)<sup>16)</sup> は、2003年に開発されたLos Angeles County Public Health Nursing Practice Manualによる臨床の事例介入研究を行った。

文献8:Oppewal (2006)<sup>18)</sup> は、保健師実践者と研究者の公衆衛生看護のためのコンピテンシーの使用法の相違のアンケート調査研究をした。文献13:Issel LM (2006)<sup>23)</sup> は、実践保健師と教員の必要なコンピテンシー測定の介入研究をした。

文献10:King MG (2006)<sup>20)</sup> は、Quad Councilが作成した公衆衛生看護コンピテンシー (Public Health Nursing Competencies) の開発に関わった者5人のインタビューによる質的評価をした。

文献2:Abrams SE (2003)<sup>12)</sup> は、1931年から

2003年における公衆衛生看護実践基準モデルをコンピテンシーのモデル開発の変化の文献検討を行った。

## 3) 大学における公衆衛生看護の教育の文献 (文献ID 4.12.14 : 3件)

文献4:Robertson (2004)<sup>14)</sup> は、実践保健師の修士課程教育導入をしている活動の文献検討をし、保健師修士課程の教育導入を提唱している。

文献12:Swider (2006)<sup>22)</sup> は、シカゴのRush Universityの卒業生のためのCNSの教育カリキュラムの事例介入検討をし、卒後教育体制の確立を模索している。

文献14:Maltby (2006)<sup>24)</sup> は、バーモント大学看護学生とバーリトン保健局の協力による看護学生による健康教育の実践報告、その後の卒後評価をした。実践による学生の経験は、学生の学習意欲を向上させると報告をした。

## IV. 考察

本研究で検討した文献は、公衆衛生看護活動基準の開発の報告や既に開発され実践されている活動基準を指標に評価しているものが15文献のうち8割を占めている。

代表的な公衆衛生看護活動基準は、カリフォルニア州ロサンゼルス市のLAC PHN Practice Model、ミネソタ州のIntervention Wheel (以前Public Health Intervention Model) の2つである。ポピュレーションベースで、アセスメント、診断、結果、計画、構成要素、評価の一連の過程を実施することが共通している。特に、Intervention Wheel (以前Public Health Intervention Model) は、ビデオ化され全土的に使用されている基準であり<sup>15)</sup>、1999年に開発されたPublic health nursing competenciesの基礎となっている。Public health nursing competenciesは、主要4団体協議会 (Quad Council) の提唱である公衆衛生看護実践の基準である。主要4団体協議会 (Quad Council) は、アメリカ看護協会 (The American Nurses Association's Congress on Nursing: ANA)、地

域看護教育協会 (The Association of Community Health Nurse Educators: ACHNE), アメリカ公衆衛生協会公衆看護部門 (The American Public Health Association- Public Health Nursing Section :APHA), 州・地区看護師長協議会 (The Association of State and Territorial Directors of Nursing: ASTDN) から構成されている<sup>26)</sup>。2007年には, 公衆衛生看護実践の基準の見直しが行われた。その内容は, ジェネラリストとスペシャリスト別に, アセスメント分析技術, 政策開発/プログラム計画技術, コミュニケーション技術, 地域実践技術, 公衆衛生学技術, 財政マネジメント技術, リーダーシップとシステム開発技術の8つの領域でコンピテンシーが開発された<sup>26)</sup>。開発された活動基準は, ポピュレーションベースの活動基準であることが特徴である。ポピュレーションベースによる家族とコミュニティと社会的システムをマネジメントが大きな柱になっている。これらは, 地域を看護する能力を高めるようにするためと考えられる。

既に開発された実践に利用されている活動基準の評価をした研究は, LAC PHN Practice ModelやPublic health nursing competenciesなど代表的な活動基準を介入研究や調査研究, 文献研究, インタビューなどを実施したものがある。保健師のコンピテンシーを高めるために, 更なる開発が行われていており, 長年の公衆衛生看護の実践の積み上げがされている結果と思われる。

また, 様々な公衆衛生看護場面で活動する看護職の活動基準設定プログラムが開発されている。アメリカでは, 日本のように保健師の国家資格はない。看護職が地域で活動するには, ①公衆衛生/地域看護を担う看護師 (Public / Community Health Nurse:以下P/CHN), あるいはCNS, ②在宅看護を看護師あるいは専門看護師, ③教区看護師 (Parish Nurse), 地域における高度実践看護師 (Advanced Practice Registered Nurse) として, 看護の実践をする。しかし, 保健師として資格を取得すること認定している州もある。例えばカリフォルニア州は,

所定単位を取得した学士看護師の申請により資格認定をしている<sup>27)</sup>。活動の多様性に対応するために, P/CHNに対しての活動基準の開発, 卒後のCNSの活動基準の開発, また, P/CHN, CNS, Specialist, 公衆衛生看護部門の監督者別の活動基準が設定され評価がなされている。これらは, 個々の公衆衛生看護を担う看護職の効果的な活動を助長するものであると考えられる。

更に, アメリカの保健師教育は, 修士大学院での保健師教育の評価, 公衆衛生の現場での卒後プログラムの開発, 大学とコミュニティの共同による学生及び卒後教育プログラムの研究がなされている。専門性を更に高めるための卒後プログラムの開発は, 大学や行政機関で積極的に行われていると考えられる。

日本においては, アメリカのような全土的なコンピテンシー向上のプログラム, 活動場面での活動基準はない。日本の公衆衛生の専門性を高めるモデルの開発が活動場面によって必要になってくるかと思われる。その方法は, アメリカで多く実施されている研究の手法である従来の地域看護診断や研究者による公衆衛生の活動方法<sup>28)</sup> <sup>29)</sup>, 厚生労働省による指針<sup>30)</sup> の評価分析による開発も可能かと思われる。その内容としては, 感染症や災害などの様々な問題に対応するために, 個人・家族とコミュニティと社会的システムをマネジメントしていくポピュレーション基準の活動基準の開発の必要性があると思われる。日本では, 保健師国家試験を取得した後は, 統一した卒後教育システム化が未整備であり, 高度専門的な保健師教育, 卒後教育は課題である。アメリカのような大学や保健行政機関が教育の協力をして行っていく必要があると思われる。

## V. 結語

アメリカの保健師の活動基準の研究動向の分析は, 1) 活動基準の開発の文献, 2) 既に開発された実践に利用されている活動基準の評価の文献, 3) 大学における公衆衛生看護の教育の文献3つの内容に分類された。開発された活動

基準は、ポピュレーションベースの活動基準であることが特徴である。ポピュレーションベースによる家族とコミュニティと社会的システムをマネジメントが大きな柱になっている。これらは、地域を看護する能力を高めるようにするためと考えられる。

また、既に開発された実践に利用されている活動基準の評価をした研究は、保健師のコンピテンシーを高めるために、更なる開発が行われており、長年の公衆衛生看護の実践の積み上げがされている結果である。更に、アメリカの保健師教育は、専門性を更に高めるための卒後プログラムの開発を大学や行政機関が積極的に行っている。日本においての課題は、従来ある地域看護診断などの指標を使用し、評価分析による公衆衛生看護活動基準の開発は必要である。感染症や災害などの様々な問題に対応するために、個人・家族とコミュニティと社会的システムをマネジメントしていくポピュレーションベースの活動基準の開発が必要であると思われる。

#### 文献

- 1) Kearen Buhler Wiikerson :Bringing Care to the People:Lillian Wald Legacy to Public Health Nursing, American Journal of Public Health, 83(12), p1778-86, 1993.
- 2) 田村須賀子：米国におけるP/CHM教育と質的保証の仕組み，保健の科学，50(3)，p154-155.
- 3) American Nurses' Association. Scope and Standards Public Health Nursing Practice. Washington, DC: American Nurses' Association .1999.
- 4) American Nurses' Association, 日本看護協会訳：いま改めて公衆衛生看護とは－定義・役割と範囲・規範，2003.
- 5) 大倉美佳：行政機関に従事する保健師に期待される実践能力に関する研究－デルファイ法を用いて，日本公衆衛生誌，51(12)，p1018-1027，2004.
- 6) 岡本玲子，塩見美抄他：今特に強化が必要

な行政保健師の専門能力，日本地域看護学会誌9(2)，p60-67，2007.

- 7) 麻原きよみ：欧米における保健師活動の主要モデル，看護研究，38(6)，p19-26，2005.
- 8) 有本梓：保健師の能力・コンピテンシーに関わる研究の現状と課題，看護研究，38(6)，p27-40，2005.
- 9) Cooper H:Synthesizing Research Iterature Review(3rd), SAGE Publication, 1998.
- 10) D.F.ポーリット，近藤潤子訳：看護研究－原理と方法，p90-140，医学書院，1994.
- 11) Smith K, Bazini-Barakat NA : Public health nursing practice model: melding public health principles with the nursing process. Public Health Nursing, 20(1), 42-8, 2003.
- 12) Abrams SE :From function to competency in public health nursing 1931 to 2003. Public Health Nursing , 507-10, 2004 .
- 13) Kaiser KL,Rudolph EJ: Achieving clarity in evaluation of community/public health nurse generalist competencies through development of a clinical performance evaluation tool. Public Health Nursing, 20 (3), 216-27, 2003 .
- 14) Robertson JF: Does advanced community/public health nursing practice have a future?, Public Health Nursing , 495-500, 2004.
- 15) Keller LO, Strohschein S,Lia Hoagberg B, Schaffer MA :Population-based public health interventions: practice-based and evidence-supported Part I. Part II.Public Health Nursing, 21(5), 453-68, 469-87, 2004.
- 16) Sakamoto SD, Avila M :The Public Health Nursing Practice Manual: A tool for public health nurses.Public Health Nursing , 179-82, 2004.
- 17) Kalb KB,Cherry NM,Kauzloric J,Brender A,Green K,Miyagawa L,Shinoda-Mettler A

- :A competency-based approach to public health nursing performance appraisal. Public Health Nursing, 23(2), 115-38, 2006.
- 18) Oppewal S, Lamanna BF, Glenn L: Comparison of the dissemination and implementation of standardized public health nursing competencies in academic and practice settings. Public Health Nursing, Public Health Nursing , 23(2), 99-107, 2006.
- 19) Ouzts KN, Brown JW, Swearingen CAD : Developing public health competence among RN to BSN students in a rural community, Public Health Nursing, 23(2), 178-82, 2006.
- 20) King MG, Erickson GP: Development of public health nursing competencies/an oral history. Public Health Nursing, 23(2): 196-201, 2006.
- 21) Cross S, Block D, Josten L, Reckinger D, Olson Keller, L, Strohschein S, Rippke M, Savik K :Development of the public health nursing competency instrument. Public Health Nursing, 23(2), 108-14 2006.
- 22) Swider S, Levin P, Ailey S, Breakwell S, Cowell J, McNaughton D, O'Rourke M: Matching a graduate curriculum in public/community health nursing to practice competencies/the Rush University experience. Public Health Nursing, 23(2): 190-5, 2006.
- 23) Issel LM, Baldwin KA, Lyons RL, Madamala K :Self-reported competency of public health nurses and faculty in Illinois. Public Health Nursing, 23(2), 168-77, 2006.
- 24) Maltby H: Use of health fairs to develop public health nursing competencies. Public Health Nursing, 23(2), 183-9, 2006.
- 25) Weierbach FM :Public health nursing competencies 1953-1966: effective and efficient. Public Health Nursing, 24(5): 480-7, 2007.
- 26) Quad Council of Public Health Nursing Organization: Public health nursing competencies. Public Health Nursing, 21(5), 443-52, 2004.
- 27) 金川克子, 田村須賀子: アメリカの地域看護学の教育体系の構築に関する研究 – 諸外国との比較から – 平成17年 – 18年度科学研究費補助金研究(B), p 23-74, 2007.
- 28) 平野かよ子: 公衆衛生看護の活動方法論(その1) 公衆衛生の特性, 公衆衛生, 66(1), p55-58, 2002.
- 29) 津村智恵子編著: 改訂地域看護学, 中央法規出版, p7, 2002.
- 30) 厚生労働省健康局総務課: 地域における保健師の保健活動指針, 平成15年10月10日付健総第1010001号.